

科目名	システム制御工学 I System Control Engineering I			担当教員	逸見知弘		
学年	4年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	専門	授業形式	講義	科目番号	14133021	単位区分	履修単位
学習目標	古典制御理論を学び、技術者に必要な制御系に関する解析能力、設計能力を身につける。 ・物理法則をもちいて、各種システムの数学モデルを導出できる ・制御系を構成する基本的要素（比例要素、積分要素、1次遅れ要素、2次遅れ要素、無駄時間等）の伝達関数を示すことができる。 ・ラプラス変換と伝達関数の関係を論理的に説明できる。 ・フィードバック制御の基本的構成ならびに各種特性を理解できる。 ・PID制御を用いた制御系の設計法をMATLAB /Simulinkを用いてシミュレーションできる。						
進め方	1. 各項目ごとにその基本的な考え方と理論を例題に基づいて解説する。 2. 演習問題を学生に解かせ、それらの解答に基づき、再度、必要な理論の考え方を解説する。 3. 必要に応じて制御系の応用ソフトウェア（MATLAB, Simulink）を用いて必要な実習を行う。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	0. ガイダンス(1) 1. 制御工学とは(13) (1) 制御工学の考え方 (2) ラプラス変換と伝達関数 (3) 動的システムの数学モデルと標準形			・フィードバック制御の基本的構成を説明できる ・制御系を構成する基本的要素の伝達関数とラプラス変換の関係を論理的に説明できる ・各種システムの数学モデルを導出でき伝達関数に変換することが出来る。 B(7)			
	[前期中間試験](2)						
	試験答案の返却および解説(1) 2. 伝達関数の過渡特性・定常特性(13) (1) 時間応答の計算 (2) 1次遅れ系、2次遅れ系の過渡特性と定常特性			・各種関数のラプラス変換を求めることができ、逆ラプラス変換をもちいてシステムの各種応答を計算できる。 ・1次遅れ・2次遅れ要素の時間応用より、ステップ応答の過渡特性と定常特性を説明できる B(7) , E(3)			
	前期末試験						
	試験答案の返却および解説(1) 2のつづき(5) (3) システムの極と安定性について 3. s領域での制御系解析(8) (1) 閉ループ制御系のブロック線図 (2) 安定判別法(フルビッツ、ラウス)			・システムの極と基本的要素のステップ応答の安定性の関係性を説明できる ・閉ループ制御系のブロック線図から閉ループ伝達関数を求めることができる。 ・システムをフルビッツの方法、ラウスの方法を用いて安定判別を行うことができる。 E(3)			
	[後期中間試験](2)						
試験答案の返却および解説(1) 3のつづき(4) (3) フィードバック制御系の定常特性 4. PID制御(9) (1) PID制御とは (2) PID制御の特性と改良型PID制御			・フィードバック制御系の過渡特性、定常特性を説明できる ・PID制御の各要素の意味を理解し、システムに合わせた制御系設計を行なうことができる。 B(7) , E(3)				
後期末試験							
試験返却(1)							

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目について、定期試験の結果を用いて、学習到達目標に達しているかを判断する。 ・レポート課題がある場合はその試験期の成績に1～3割の割合で加味する。（割合は回数、内容によって異なるので、その都度周知する）
履修要件	特になし
関連科目	電気回路（3年） → システム制御工学Ⅰ（4年） → システム制御工学Ⅱ（5年） メカトロニクス基礎Ⅲ（3年）
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：井上和夫監修, 川田昌克, 西岡勝博共著 「MATLAB/Simulinkによるわかりやすい制御工学」 森北出版 ISBN 978-4-627-91721-7 ・MATLAB用配布プリント
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム指定科目 ・本授業は、数学（微分積分、線形代数、複素関数論）の内容を多分に含む学問であるため、数学系の科目の復習を行っておくこと。 ・使用する教科書は、非常にわかりやすく解説されているので必ず授業の予習復習を行うこと。